

東洋産業だより

東洋産業だよりのバックナンバーは、ホームページでご覧いただけます。

□ トピック □ 2016年の異物検査まとめ

昨年一年間で、弊社にご依頼いただいた異物検査の内訳を右図に示しています。金属やプラスチックといった非生物と、昆虫類の検査件数はほぼ同数となりました。また、「その他」には植物片、毛髪、骨といった生物由来物や製品由来と思われる成分(有機物)の凝集・変質、カビなどの微生物、異臭検査などが含まれています。このうち、非生物と昆虫類(科別)について、それぞれ件数の多かったものを下表にまとめました。

非生物では、製造機器類やライン周辺から発生したと思われる鉄を含む異物やステンレス鋼の破片、そして容器・フィルム・繊維など用途が多岐にわたるポリプロピレンが多く見られました。一方、昆虫類ではアリ科が最も多く、そのほとんどは生殖虫(翅アリ)でした。次いで屋外から工場内に侵入してくる虫の代表格であるユスリカ科、貯蔵穀物害虫を含むメイガ科(チョウ目)という結果になりました。

	非生物	昆虫類(科別)
第1位	鉄(錆など)	アリ科
第2位	ポリプロピレン	ユスリカ科
第3位	ステンレス	メイガ科

表.分類別異物検査件数ランキング

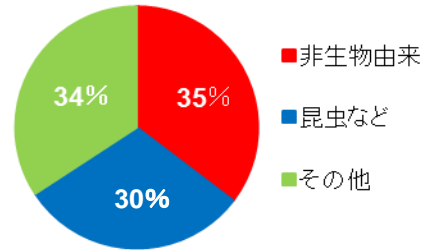
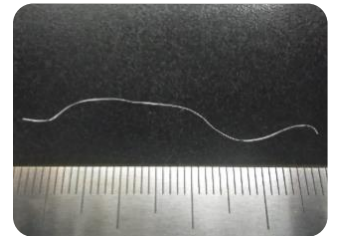


図.弊社での異物検査数内訳(2016年)

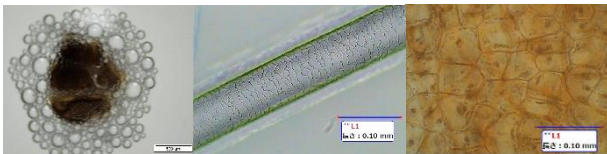


分析事例(ポリプロピレン繊維)

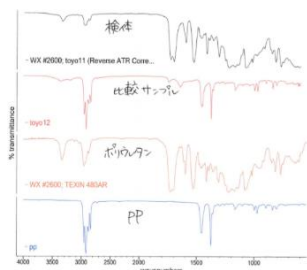
□ お知らせ □ 東洋産業の異物同定

弊社では、異物の迅速な同定(原則として3営業日以内)はもちろん、ご要望に応じて混入原因の推測や再発防止対策なども行っています。例えば、非生物由来の異物であれば、色や質感などが類似しているものを同時に分析することで、混入した原因がより正確に推測できる場合があります。昆虫類では、製造から流通、保管時の環境や時期、製品の包装状態、発見時の状況などの情報が揃えば、生態なども考慮して混入時期をある程度絞り込むことができます。動物毛や植物では、種の同定や混入原因の推測は難しいことも多いですが、光学顕微鏡で小皮紋理(キューティクル)や細胞壁など、組織の観察等により判定しています。

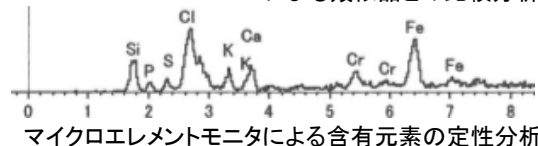
詳細は弊社ホームページにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



左:カタラーゼ試験
中:小皮紋理(ヒト)
右:植物の細胞壁



FT-IRによる類似品との比較分析



マイクロエレメントモニターによる含有元素の定性分析

□ 豆知識 □ 今年は「とり年」

あけましておめでとうございます。2017年は「丁酉(ひのととり)」です。「酉」という字は酒を入れる壺を表した象形文字であり、「酌」や「酔」などお酒に関わる漢字の部首にもなっています。また、「犬猿の仲」である「申」と「戌」を仲裁するため間に入ったことから、干支が「さる→とり→いぬ」の順になったという言い伝えもあるそうです。商業の世界では、「とり」は「とりこむ」に通ずることから縁起がいいとされています。

鳥類の中でも、鶏は古くから世界中で食べられているポピュラーな食肉です。牛肉でいう「和牛」のように、鶏肉にも「地鶏」があります。「地鶏」という表示はJAS規格に基づくもので、在来種由来の血統が50%以上で出生証明ができる素びなを使っていることや、孵化後の飼育日数、さらには飼育環境まで基準があるそうです。「名古屋コーチン」の名で親しまれている名古屋種を始め、烏骨鶏や尾長鶏など、元となる39の純血統種は「天然記念物」にも指定されています。

安価で栄養価の高い鶏肉や鶏卵を味方につけて、今年もたくさんの福をとりこみましょう。



名古屋コーチン